KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立クローラスプレーヤ
CHS131
CHS201

⚠ 警　告

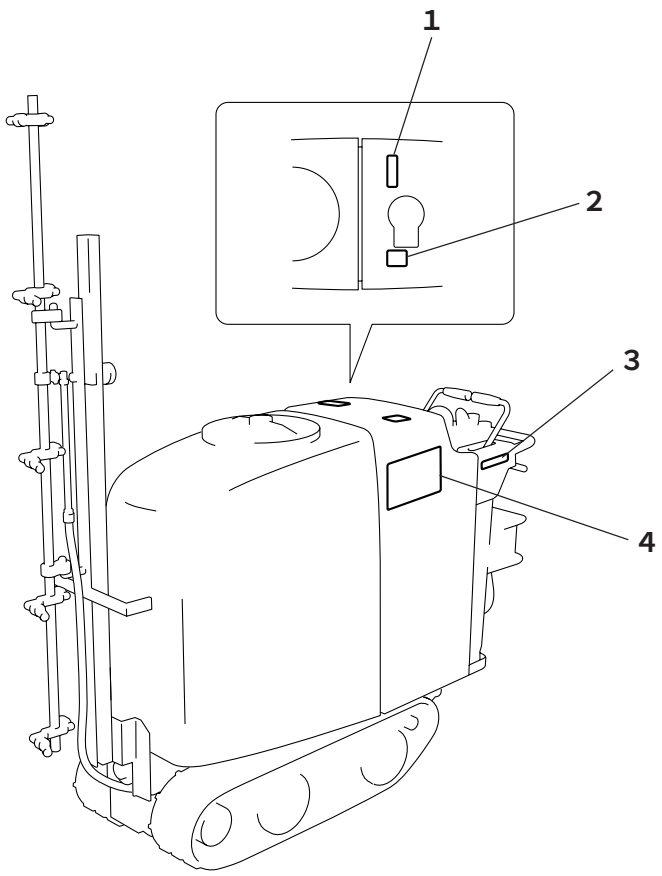
ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

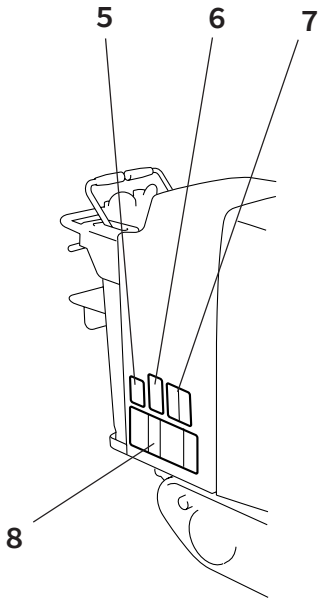
⚠ 注　意

- 説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
- 説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しい説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- 説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、説明書とともに機械を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この説明書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

警告表示ラベルについて

- 説明書で解説されている機械には、次ページの「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に「警告表示ラベル」で確認し、ラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベル（次ページの表示ラベル一覧のもの）を購入し、下図「警告表示ラベルの指示番号位置」に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。



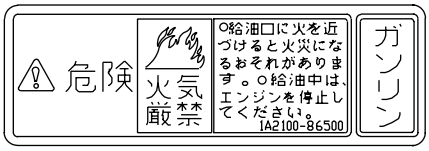


CHS131-52

CHS131-04

警告表示ラベル

1



1A2100-86500

2



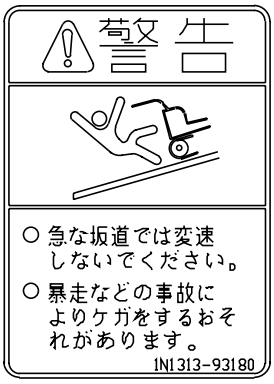
1A2260-87100

3



1E5120-86720

5



1N1313-93180

6



1N3544-93200

4

⚠ 警 告	・飲料水源・河川・湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水すること。 ・残った薬液や洗浄水は薬害を起こさない濃度で、自分の圃内で処理すること。 ・薬害や環境汚染を起こさないよう充分配慮すること。
⚠ 注 意	・取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。 ・使用する農薬の取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。 ・点検整備のときはエンジンを停止してください。けがをするおそれがあります。 ・本機から離れる時は必ずエンジンを停止してください。 ・駐車時は必ず駐車ブレーキを使用してください。 ・保護マスク　保護メガネ　保護衣　ゴム手袋　ゴム長靴を用意し、安全な服装で作業してください。 ・作業後は手足顔などをよく洗いうがいをしてください。 ・作業中に少しでも体調がおかしくなったときは直ちに作業を中止し、医師の診断を受けてください。 ・フタは確実にしめてください。薬液をあびるおそれがあります。 ・運転中ノズルに近づかないでください。薬液をあびるおそれがあります。 ・凍結のおそれがある時はポンプを空運転して水抜きを行ってください。（約1分）

X505-000720

X505-000720

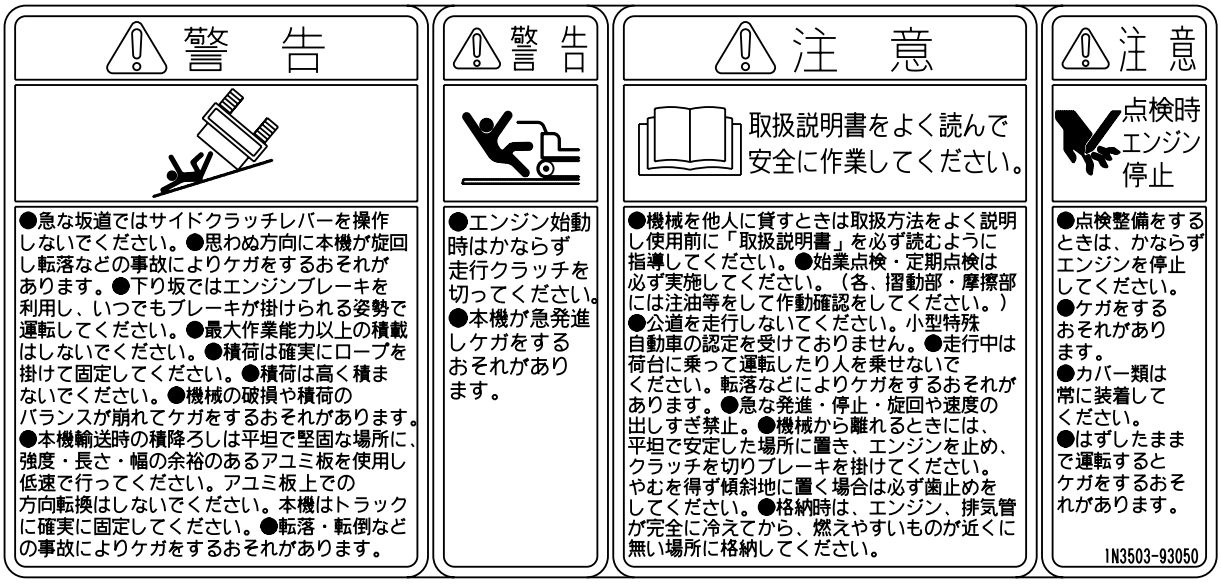
警告表示ラベル

7



1N3561-93090

8



1N3503-93050

重要なお知らせ

共立クローラスプレーヤをお買い上げいただき、ありがとうございます。

● この取扱説明書は、機械の正しい扱いかたと、簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。
- 本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 取扱説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
- 単位はＳＩ単位を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

● ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。
- お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。
- また、この機械を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。
- 本書では、安全上重要な事項を⚠で示し、次のように表示しています。
- 必ず守ってください。

● 機械の使用目的について
- この機械は日本国内でのみ使用してください。
- この機械は液剤散布作業に使用し、それ以外には使用しないでください。
- 機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造しないでください。また、その場合には保証の対象になりません。
（詳細は保証書をご覧ください。）
- この機械で公道は走行できません。
- なお、この機械の品質・性能上あるいは安全のために、使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容および図などの一部が、機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承願います。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丝に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

目 次

正しい作業のために …… 2
各部の名称 …… １０
輸送・移動時の注意 …… １４
使用準備 …… １５
作業を行なう …… １７
散布終了後の手入れ …… ２１
点検・整備 …… ２２
故障と対策 …… ２４
長期格納整備 …… ２６
仕　様 …… ２７

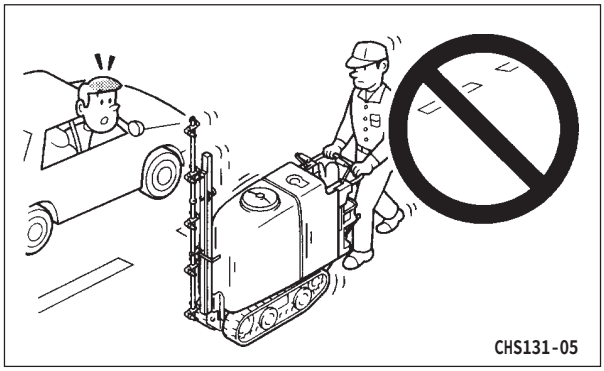
正しい作業のために



⚠ 警　告

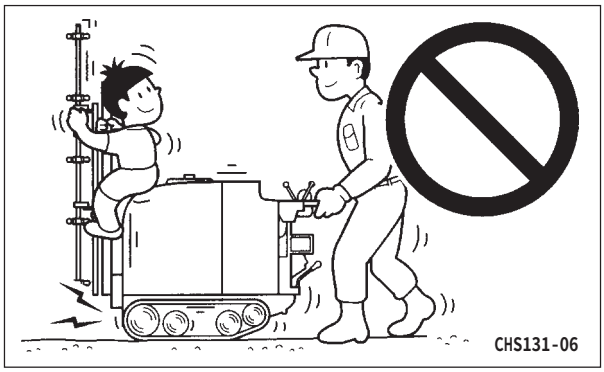
このような人は作業をしないでください。

- **酒気をおびた人**
- **妊娠している人**
- **１６才未満の人**
- **未熟練者**
- **過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人**



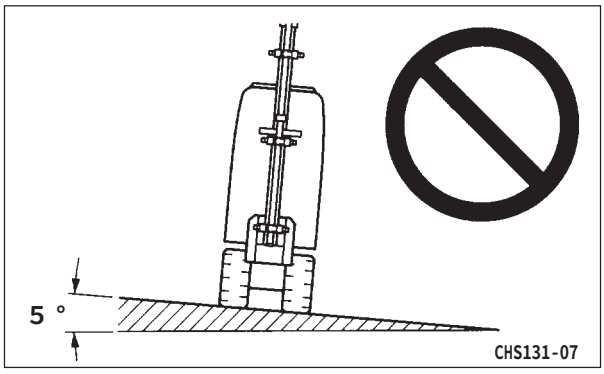
⚠ 警　告

本機で一般道路を走らないでください。



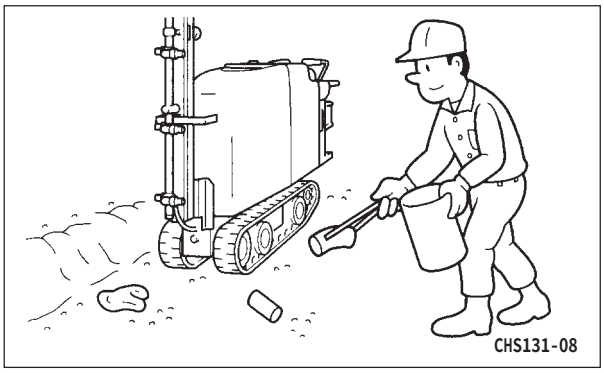
⚠ 警　告

本機に人を乗せて走行しないでください。



⚠ 危　険

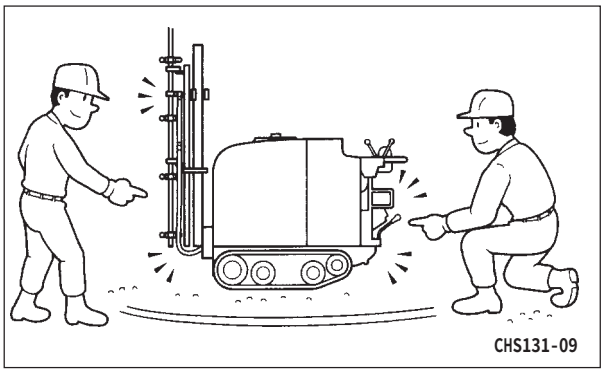
５°以上の傾斜地での走行はしないでください。転倒することがあります。



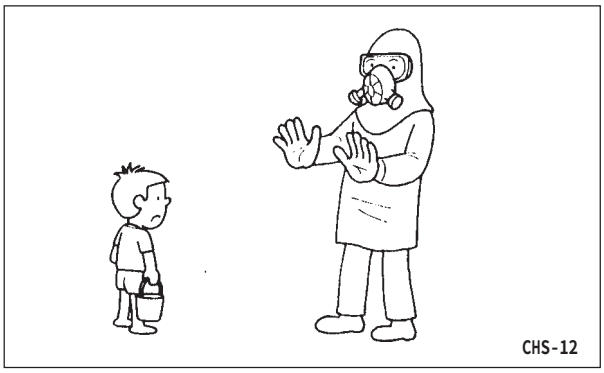
作業前の点検

● 作業場所の点検は必ず行ない、ゴミ、空きカンなど作業の障害になるものを取除いてください。

● 水を多く含んだ軟弱地は旋回能力が落ちると共に､本機内部に泥が入り込み故障の原因となりますので走行は行なわないでください。



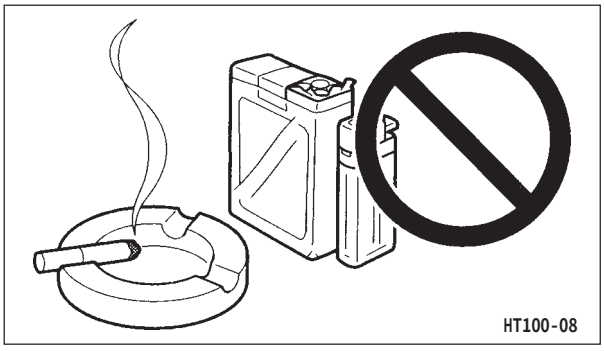
● ホース、その他の部品がきちんと取付けられているか確認してください。



● 子供や作業に関係のない人が近くにいないことを確認してください。



● 本機を不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないでください。



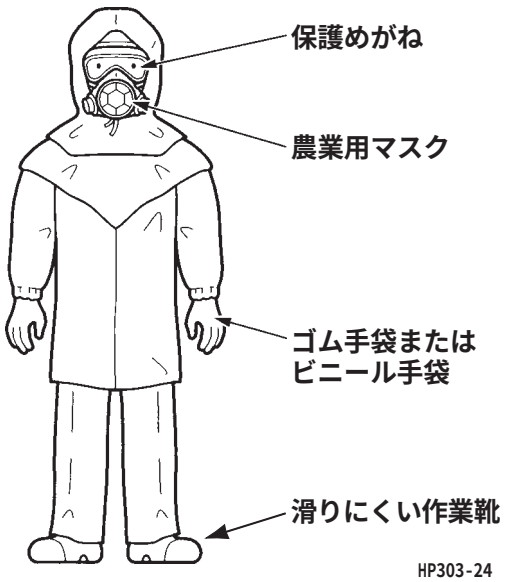
⚠ 警　告

燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

⚠ 注　意

農薬使用上の注意

- 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。
  農薬に直接触れないよう注意してください。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- 農薬が目に入らないように注意してください。
- 誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。
- また、農薬の種類によっては、
  ☆農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
  ☆かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。
- 環境へ配慮した使用が必要です。
  ☆防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。
- 農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。



重　要

薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると、散布ノズルの目詰まりの原因となります。

薬液散布について

農薬使用上の留意点

- 農薬ラベルをよく読んでください。
  農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してから使用してください。
- 農薬取締法が改正されました。
  平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
  ①使用する作物に登録のある農薬を使用すること、
  ②使用濃度(希釈倍率)および面積あたりの使用量、
  ③収穫前使用日数、④使用回数の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

⚠ 警　告

- 飲料水源・河川・湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。
- 薬液は残らないように調製し、必ず使い切ってください。
- 薬害や環境汚染を起こさないよう充分配慮してください。

薬液散布前の注意

- 滑りにくい作業靴を履いてください。
  つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。
- 薬液を散布する場合、頭、足、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、薬液が皮ふに触れないようにしてください。
- 薬液が浸透しない防水性に優れ、汗をかきにくい通気性のよい衣服を身に付けてください。
- 汗を拭いたり顔を洗うためにタオル、手ぬぐい、水などを用意してください。
- 作業を行なう場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。
- 専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。飲料水源・河川・湖沼からは直接給水しないでください。

⚠ 警　告

- 夜間や、視界が悪く暗い場所では、本機を絶対に操作しないでください。
- 風が強いときには絶対に散布を行なわないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ薬液が飛んでしまうことがあります。


HP303-25

薬液散布中の注意

- 散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がると薬液が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗してしまいます。
- 薬液がからだにかかるのを避けるため、風下の方を向き、風を背中に受けるようにして、後ろ側へ進みながら散布してください。



VRS601-06

- 薬液の散布はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。
- 作業をしながらタバコを吸ったり食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中にはいることがあります。


HP303-26

薬液散布後の注意

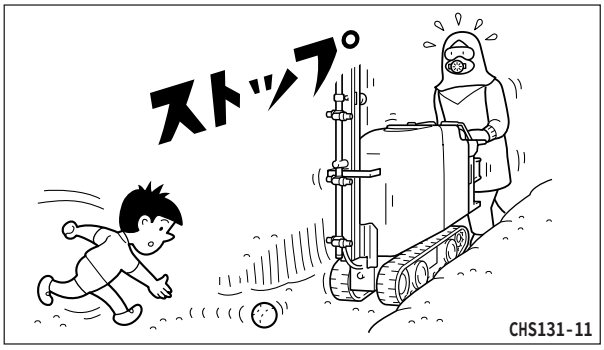
- ハウス内で防除作業を行なったときは、薬液が乾くまでは立入禁止の表示を置いてください。
- 作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。

重　要

散布終了後は、必ず清水で運転しノズル内などをきれいに洗ってください。散布ノズルの目詰まりの原因となります。

⚠ 警　告

作業中あるいは作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医師に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

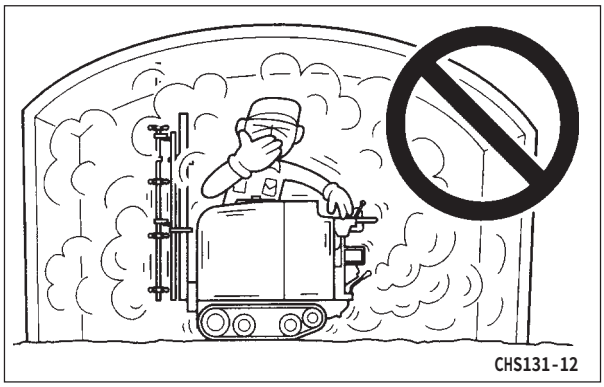


CHS131-11

作業中の注意

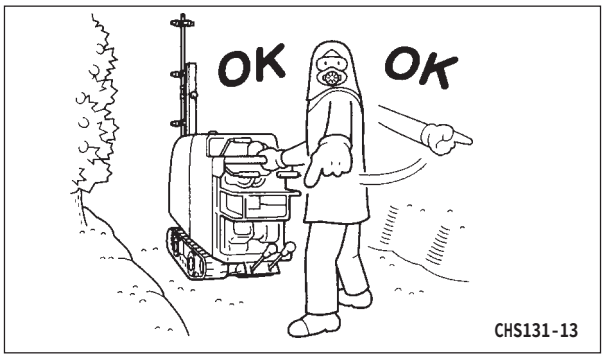
⚠ 警　告

危険を感じた場合はすぐに作業を中止してください。



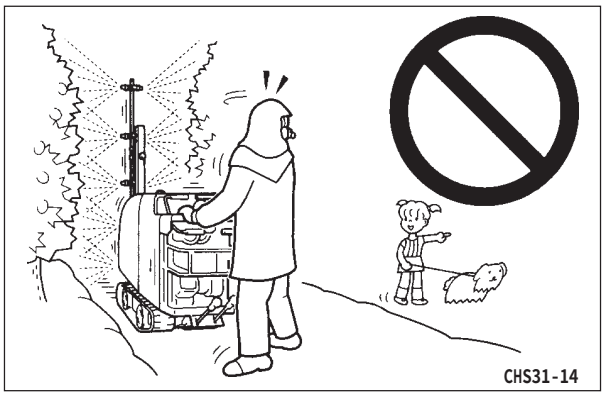
⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

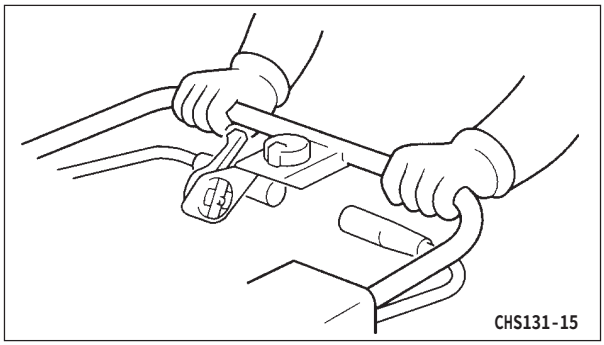


⚠ 警　告

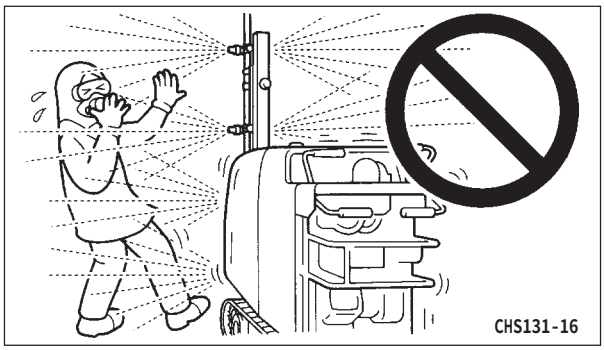
本機を動かすときは必ず周囲の安全を確認してください。



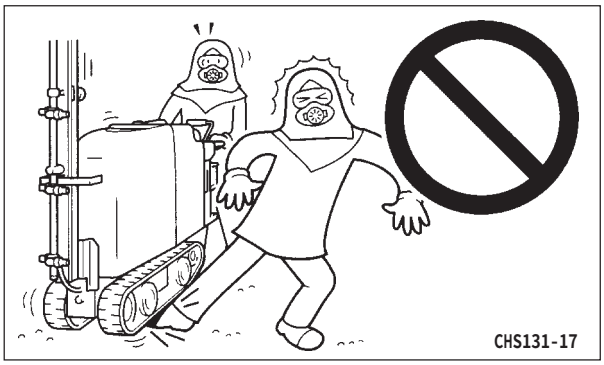
- **作業中はよそ見をしないでください。作業以外の場所を見なければいけないときは､作業を停止してください。**



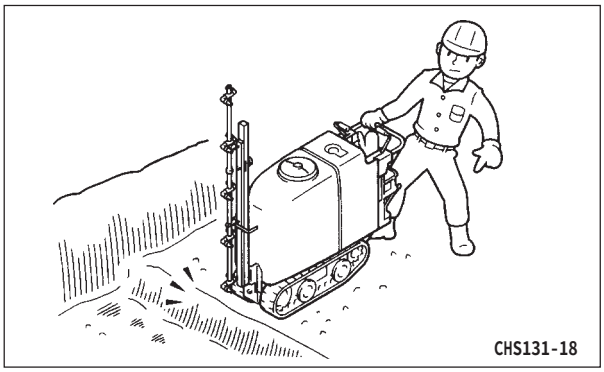
- **作業中はハンドルをしっかり握ってください。**



- **作業中はノズルにさわらないでください。ノズルの調整を行なうときは､作業を停止してください。**

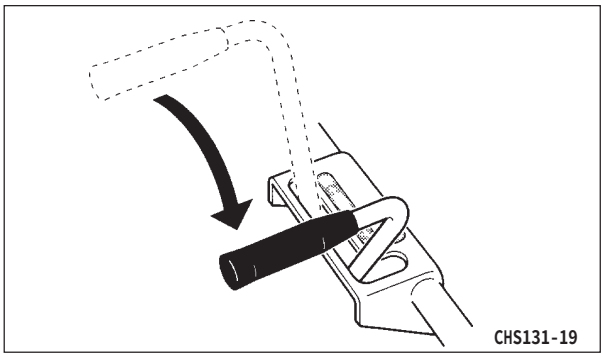


● クローラに足を踏まれないように注意してください。

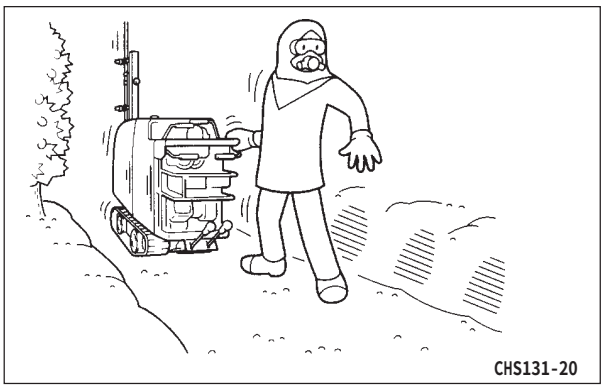


⚠ 警　告

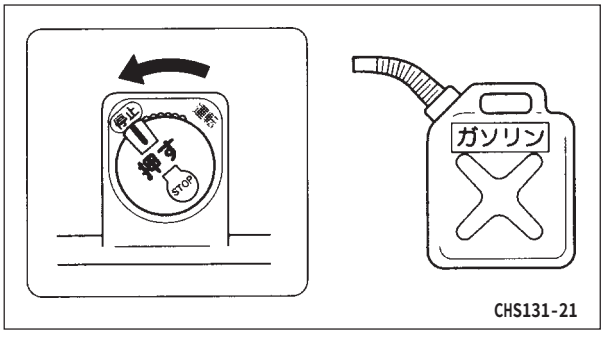
坂道、路肩、障害物、乗り越え、溝のある場所、軟弱地では速度を落とし､充分注意して走行してください。



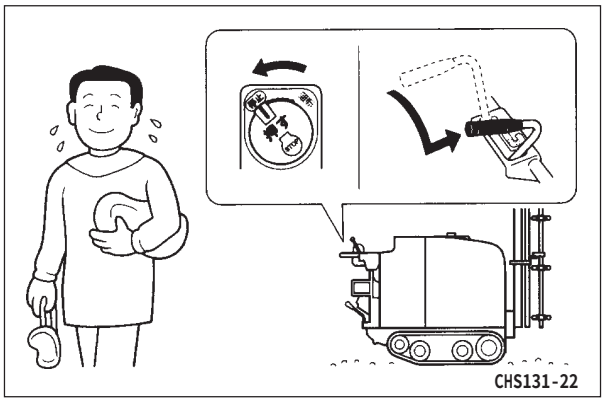
● 速度を変えたり、進行方向を変えるときには必ず走行クラッチレバーを“ 切 ”にしてください。



● 後進するときは、速度を落とし、障害物がないことを確認してください｡足元には充分気をつけてください。



● 燃料を補給するときは､必ずエンジンを停止し、冷えてから行なってください。

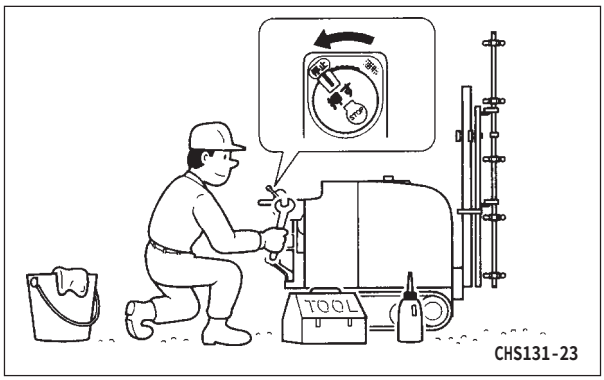


● 本機から離れるときは､エンジンを停止してください。

⚠ 警　告

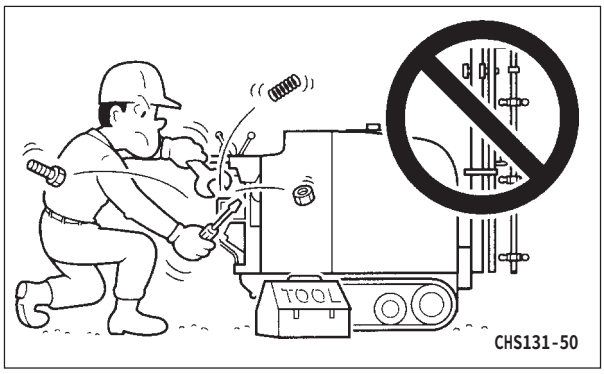
本機から離れるときは、必ず駐車ブレーキを掛けてください。

点検・整備の注意



⚠ 警　告

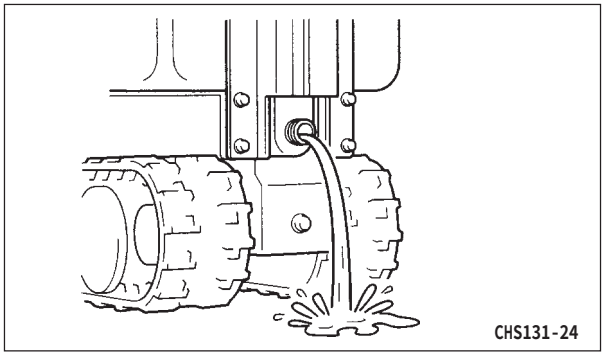
修理、清掃などの作業を行なうときは、必ずエンジンを停止してください。



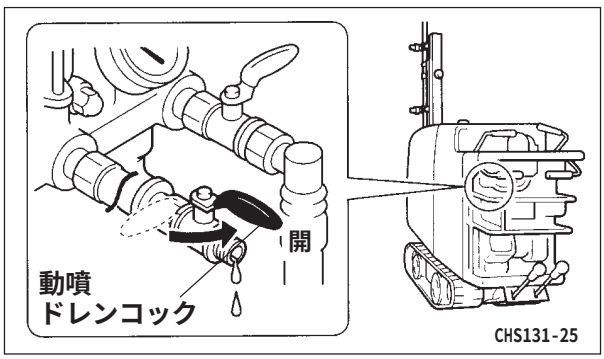
重　要

点検・整備は、本取扱説明書および動噴・エンジンの各取扱説明書に従って行なってください。

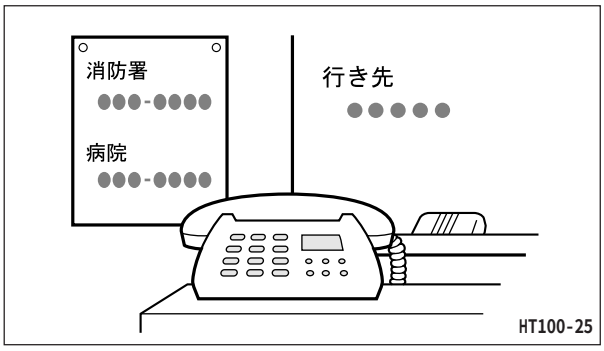
● 当社指定以外の部品を使用したり、本機の改造を行なったりしないでください。

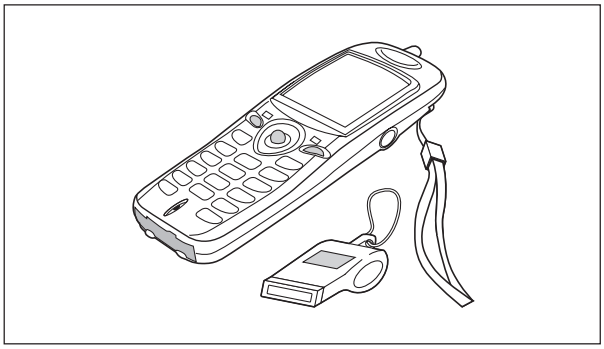


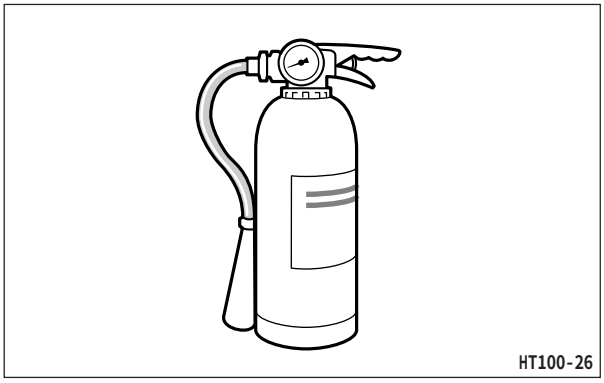
● 保管する前に必ず薬液タンクドレンのフタを外し、薬液タンク内の洗浄水を排出してください。
冬期に凍結することがあります。

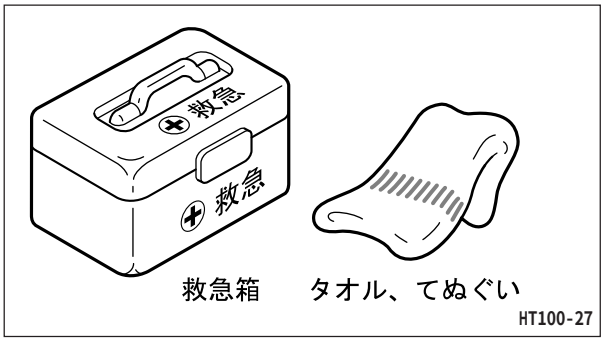


● 動噴ドレンコックを“開”にし、動噴内部の水を排出してください。









万一の事故に備えて

● 作業の前に

・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。

・作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

● 発火に対する備え

⚠ 警　告

作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず機械から離れ、自分の身体の安全を確保してください。

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

●ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

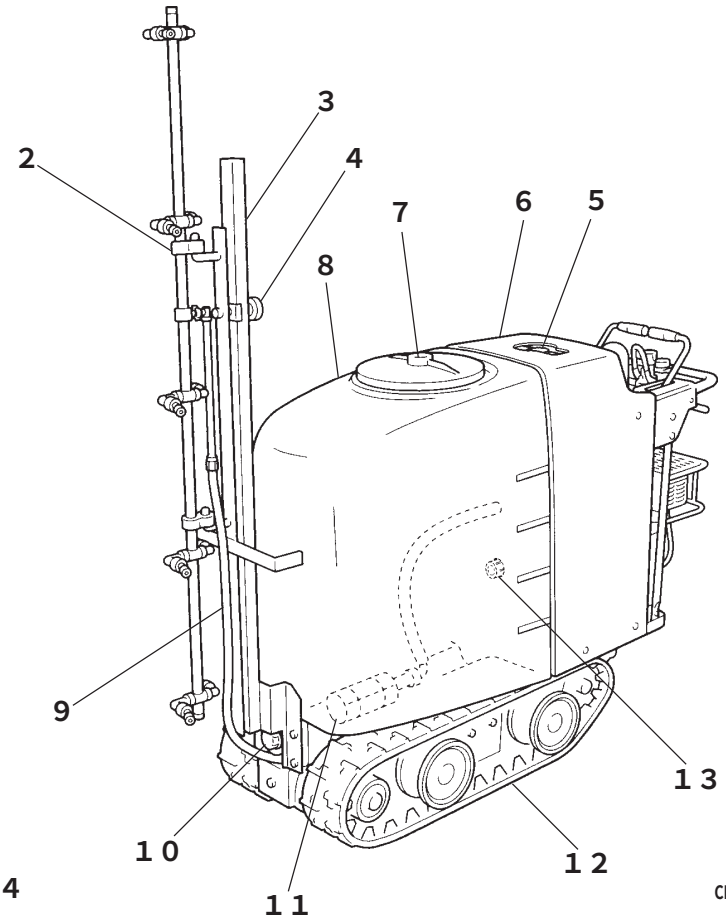
各部の名称

※ＣＨＳ１３１にアタッチメントノズル　ＣＮ１ を取付けた状態で図示してあります。

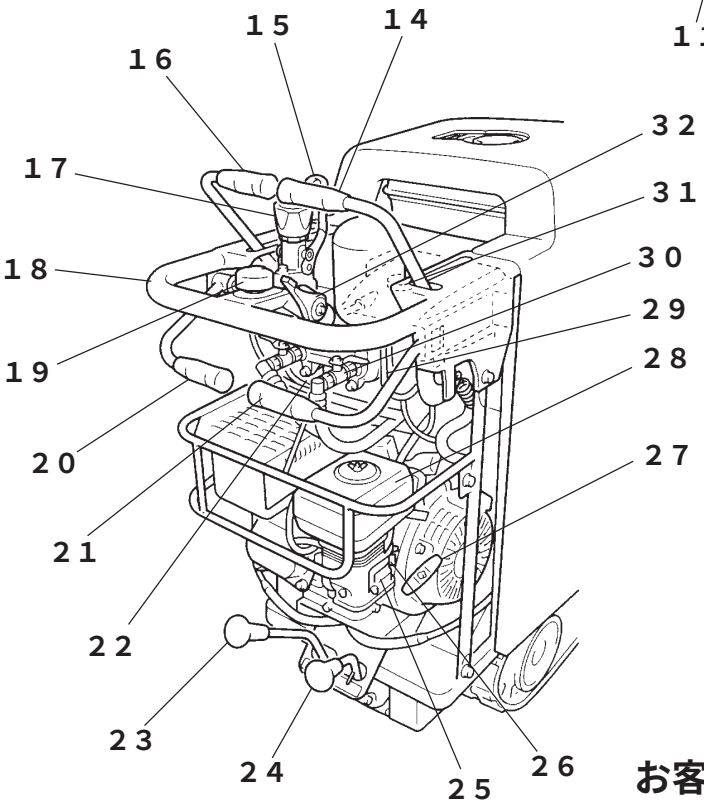
KIORITZ
取扱説明書
共立クローラスプレーヤ
1

KIORITZ
取扱説明書
動力噴霧機
1

取扱説明書
エンジン
1



CHS131-01



CHS131-02

お客様がご用意するもの

アタッチメントノズル
ＣＮ１，ＣＮ２，ＣＮＭ１２のいずれか

各部の名称とその機能

１．取扱説明書 —— 機械をお求めになったとき必ず付属しています。
機械を使用する前に各説明書を必ず読んでください。また正しい操作方法を再度確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に必ず保管してください。

２．ノズルアタッチメント —— ＣＮ１，ＣＮ２，ＣＮＭ１２がアタッチメントとして準備されています。作業に合わせて選定してください。

３．ノズル取付支柱 —— 各種ノズルを取付けます。（詳細はノズルの取扱説明書を参照ください。）

４．ノズル高さ固定ナット —— 作業に合わせたノズル高さに、ノズルを固定します。（詳細はノズルの取扱説明書を参照ください。）

５．燃料タンクキャップ —— 燃料タンクのフタです。

６．カバー —— エンジン、動噴、他のカバーです。

７．薬液タンクフタ —— 薬液タンクのフタです。

８．薬液タンク —— 薬液を入れるタンクです。

９．送水ホース —— 動噴からノズルへ薬液を送るホースです。（左、右用各１本あります。）

１０．薬液タンクドレン —— 薬液タンクの薬液、水などを抜くときに使用します。

１１．吸水ストレーナ —— 動噴にゴミなどが吸込まれるのを防止します。

１２．クローラ —— 走行時に動きます。（左、右用各１本あります。）

１３．撹拌ノズル —— 薬液を撹拌します。

１４．走行クラッチレバー（ブレーキレバー） —— 本機の走行、停止（ブレーキ）の操作を行ないます。停止時外側に倒すことにより駐車ブレーキとなります。

１５．動噴調圧レバー —— 動噴の高圧、無圧の切替えを行ないます。

１６．動噴クラッチレバー —— 動噴の運転、停止の操作を行ないます。

１７．動噴調圧ダイヤル —— 動噴高圧時の圧力を調整します。

１８．操縦ハンドル —— 本機の運転に使用します。

１９．エンジンスイッチ（緊急停止スイッチ） —— エンジンの運転、停止に使用します。
（エンジン運転時軽く押すことによりエンジンを停止できます。）

２０．左旋回レバー —— 走行時、左へ旋回するときに使用します。

２１．右旋回レバー —— 走行時、右へ旋回するときに使用します。

２２．動噴ドレンコック（ジェットポンプ接続口） —— 動噴内の水抜きに使用します。
（ジェットポンプを使用するときに使用します。）

２３．前・後進切替えレバー —— 前進、中立、後進の切替えに使用します。

２４．低・高速切替えレバー —— 低速、中立、高速の切替えに使用します。

２５．燃料コックレバー —— エンジン燃料コックの開・閉を行ないます。

２６．チョークレバー —— エンジンチョークの開・閉を行ないます。

２７．エンジンリコイルスタータハンドル —— エンジンを始動するときに使用します。

２８．エアクリーナ —— エンジンのエアクリーナエレメントが収納されています。

２９．動噴オイルゲージ —— 動噴のオイル量を確認します。

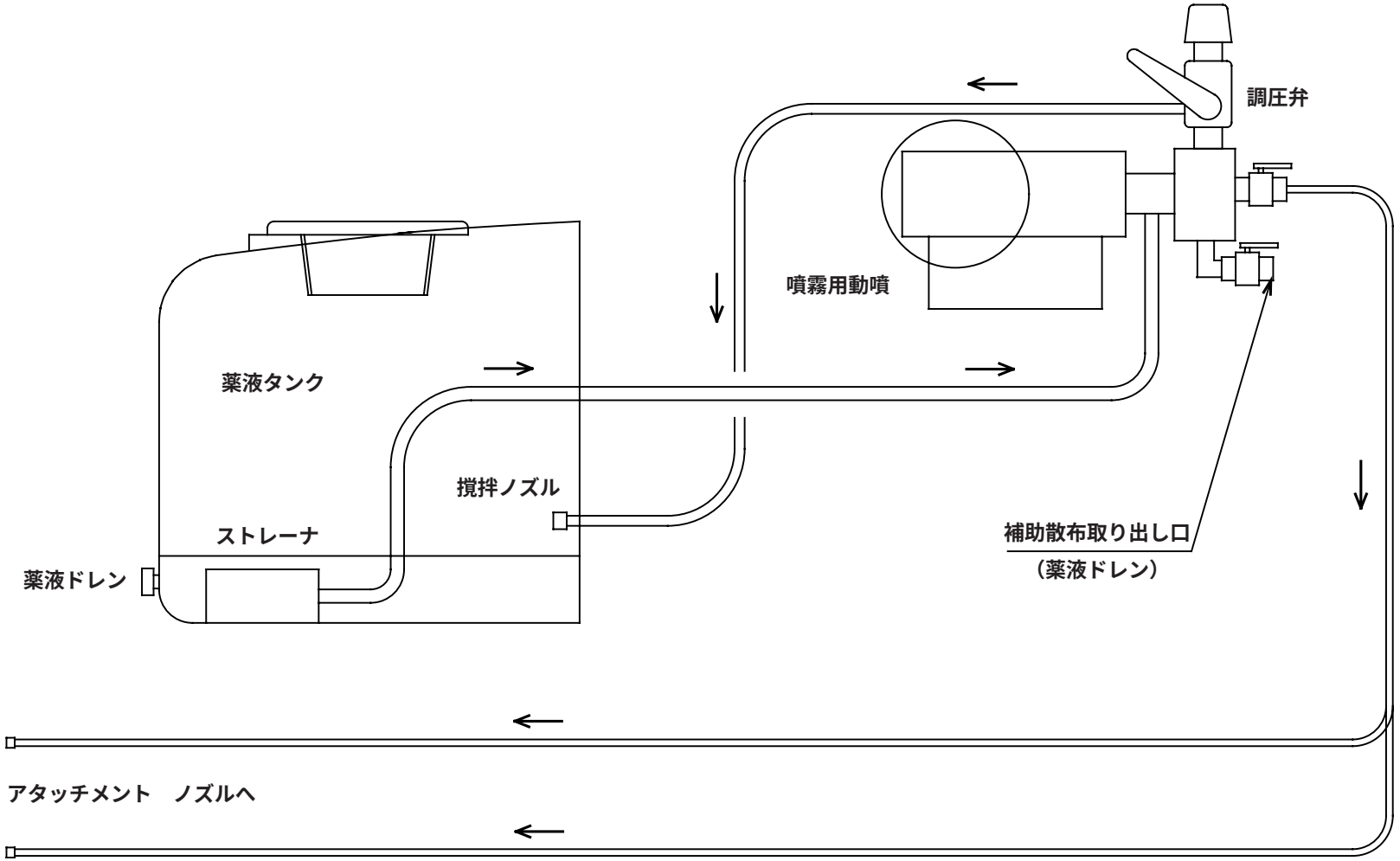
３０．噴霧コック —— 薬液を噴霧するときに使用します。（左、右用各１個あります。）

３１．動噴オイルキャップ —— 動噴オイルの給油口フタです。

３２．エンジンスロットルレバー —— エンジンの回転を調整します。

薬液配管図

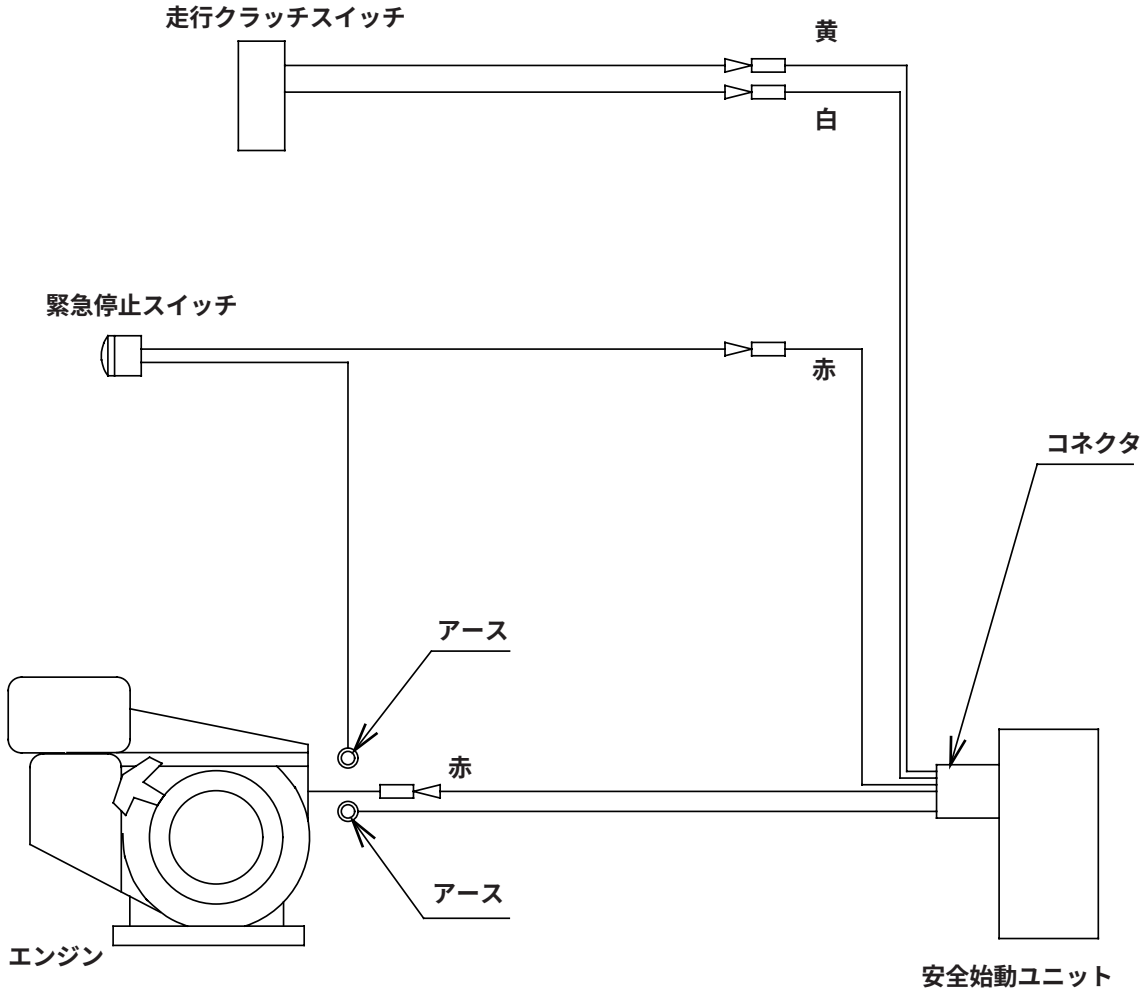
ＣＨＳ１３１／２０１



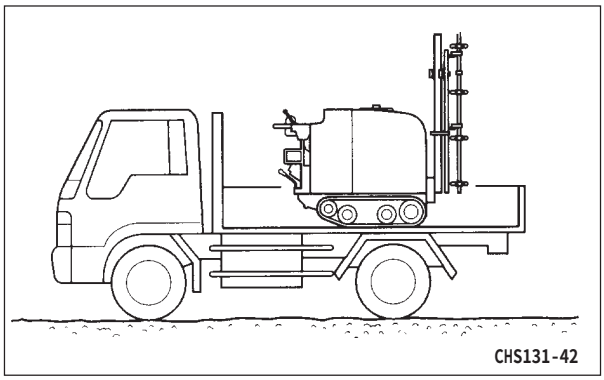
配管図の中の矢印は水または薬液の流れる方向を表わしています。

配　線　図

ＣＨＳ１３１／２０１

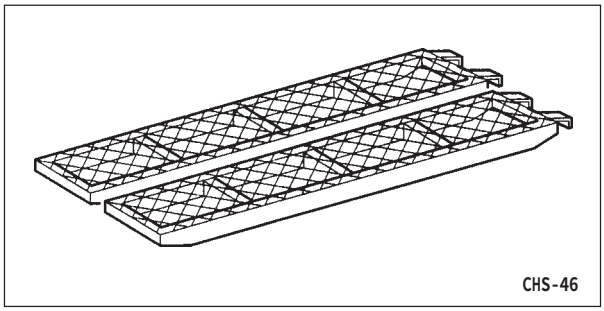


輸送・移動時の注意

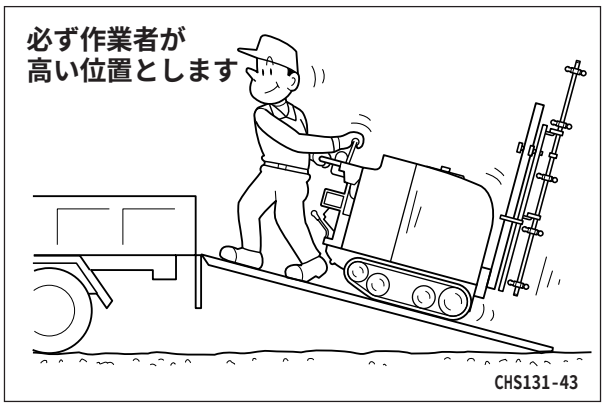


本機を移動するときやトラックなどで輸送するときには、以下の点を守ってください。

- 本機の荷重に耐えられる輸送機を使用してください。
- 本機のエンジンを停止してください。
- 燃料をカラにしてください。
- 薬液タンクをカラにしてください。
- チェンジレバーを“中立”以外にしてください。
- ノズルステー部の各ロックボルトを確実に締付けてください。



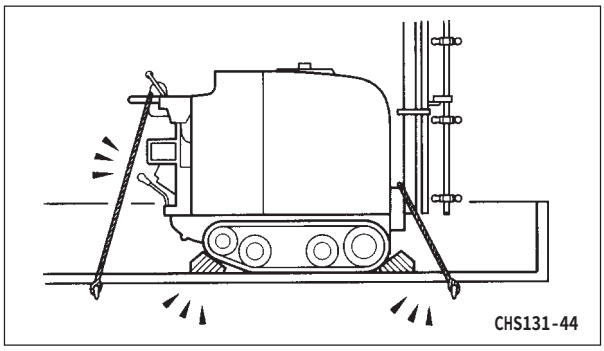
- 充分な強度と長さがあり、スベリ止めの付いたアユミ板を使用してください。



- 積み降ろしは低速で行なってください。アユミ板の上で方向変換はしないでください。
  荷台の高さの２倍以上の長さのアユミ板を使用してください。

⚠ 危　険

本機の積み込みは必ず後進で､降ろすときは必ず前進で行なってください｡(作業者が高い位置で行ないます｡)
本機のバランスがくずれ本機の下敷きとなり、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。



⚠ 警　告

下部フレームおよびハンドルにロープなどを掛け固定し、クローラに歯止めを掛けてください。

重　要

ノズル管スタンドの上部や薬液タンクなどには絶対にロープ掛けをしないでください。

使用準備

＊ＣＨＳ１３１にＣＮ１アタッチメント
ノズルを取付けた状態で説明しています。

> **⚠ 警　告**
>
> **ノズル管を取付けるときは､必ずエンジンを停止してください。**

ノズル取付支柱を組付ける

● **開梱時ノズル取付支柱が分解してありますので、付属のボルトで組付けてください。**

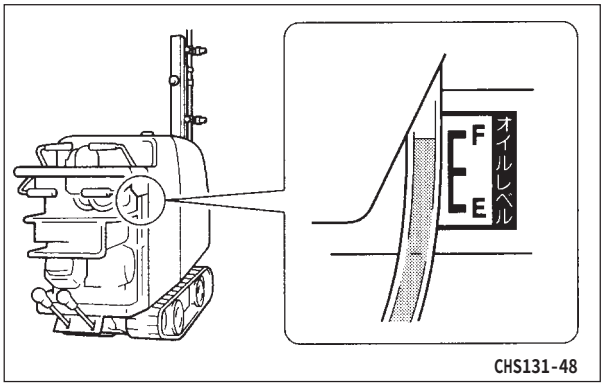
ノズルの組付け

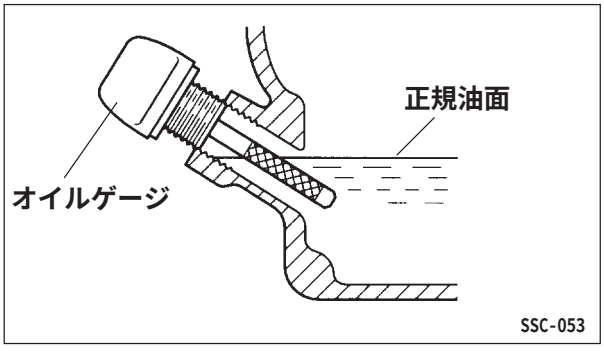
● **ノズルの組付けは、アタッチメントノズルの取扱説明書を参照してください。**

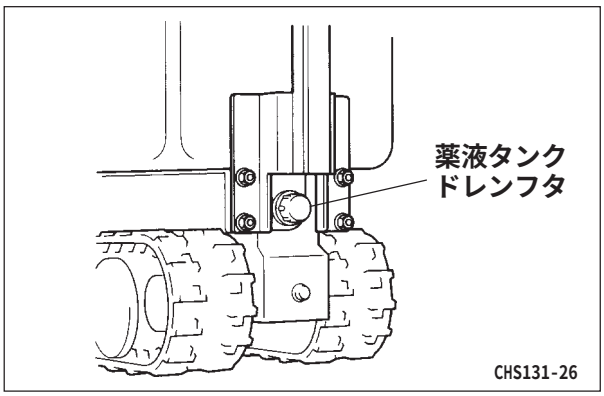
オイルを入れる

動噴とエンジンのオイル量を各オイルゲージで確認してください。少ない場合は補充してください。

> **重　要**
>
> **オイルの種類や補充は､動噴とエンジンの取扱説明書に従ってください。**

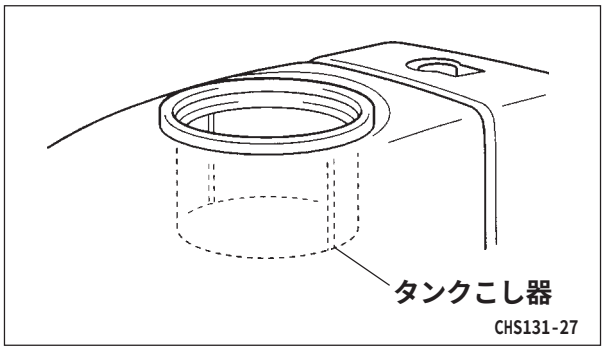






薬液を入れる

● **薬液タンクドレンのフタが確実に締まっていることを確認します。**



● 薬液を、タンクこし器を通して、薬液タンクに入れます。

重　要

薬液をタンクに入れる前に、あらかじめ別の容器で混ぜてください。

● 燃料タンクに燃料を入れます。
- 燃料は自動車用無鉛ガソリンです。
- 燃料に水分やゴミが入っていると、エンジン不調となります。きれいな新しい燃料を使用してください。

重　要

燃料は必ず無鉛ガソリンを使用してください。

⚠ 警　告

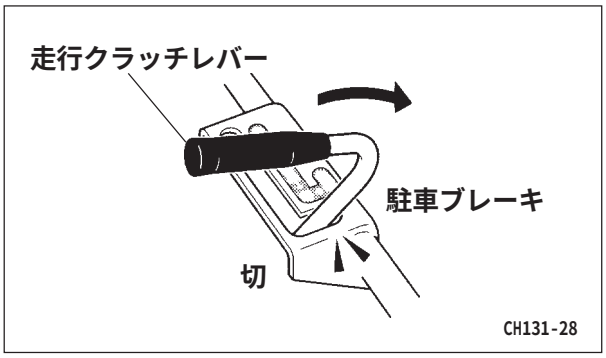
● 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。
● 燃料給油時はこぼさないように注意してください。（燃料タンクの口元まで給油しないでください。）燃料をこぼした場合は、すぐに拭き取ってください。

作業を行なう

エンジンを始動する

⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

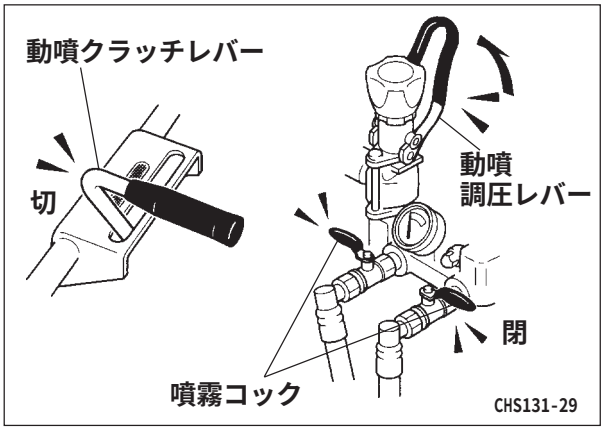


1．以下のことを確認してください。

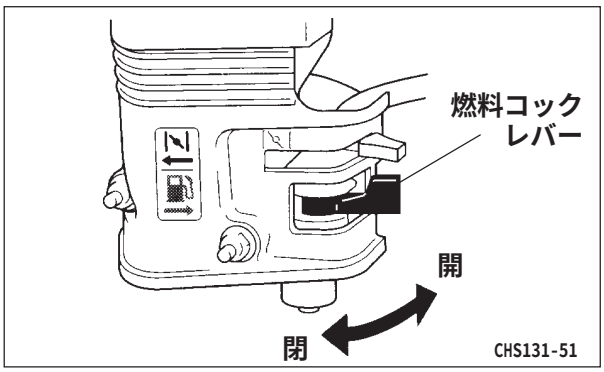
- **走行クラッチレバーが駐車ブレーキ位置となっている。**

重　要

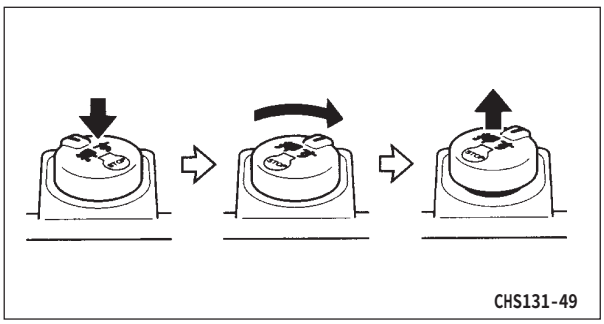
- **走行クラッチレバーが“ 切 ”の位置にあることを確認してください。走行クラッチレバーが駐車または“ 切 ”位置のときのみ、エンジン始動ができます。**
- **各チェンジレバー共に“ 中立 ”位置にしてください。**



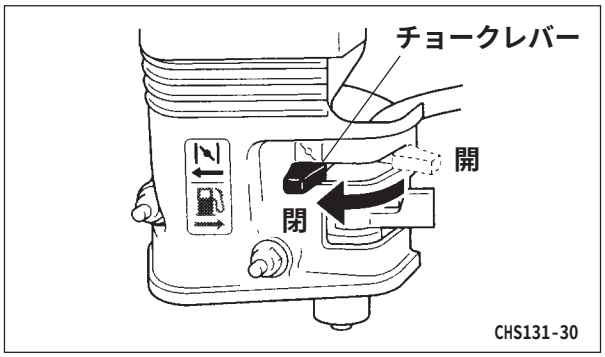
- **動噴調圧レバーが上がっている。**
- **動噴クラッチレバーが“ 切 ”の位置にある。**
- **噴霧コックが閉じている。**



2．燃料コックレバーを開きます。



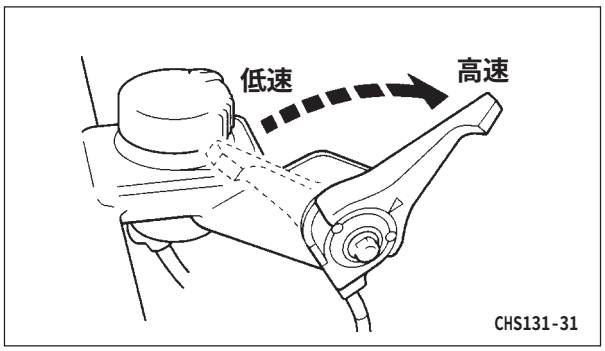
3．エンジンスイッチを運転位置にします。
（押しながら右に回し、引き上げるように手を離します。停止するときは軽く押すことにより停止位置となります。）



4．リコイルスタータハンドルを引いてエンジンを始動します。

重　要

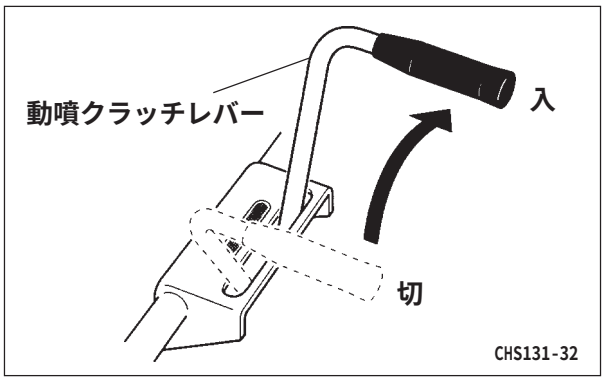
エンジンが冷えているときは、チョークを“閉”にしてからリコイルスタータを引いてください。エンジンが始動したら必ずチョークを“開”にしてください。



5．スロットルレバーを動かしてエンジンの回転数を調整します。

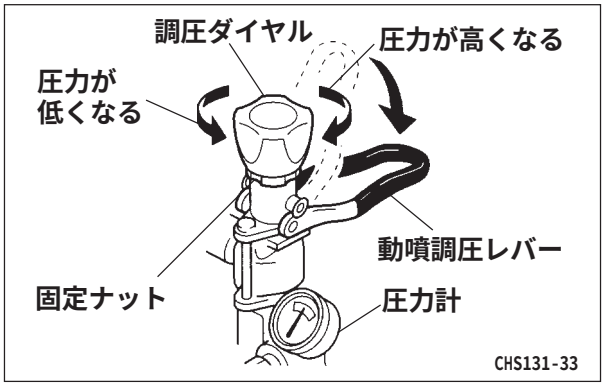
重　要

エンジンの始動は、エンジンの取扱説明書に従ってください。

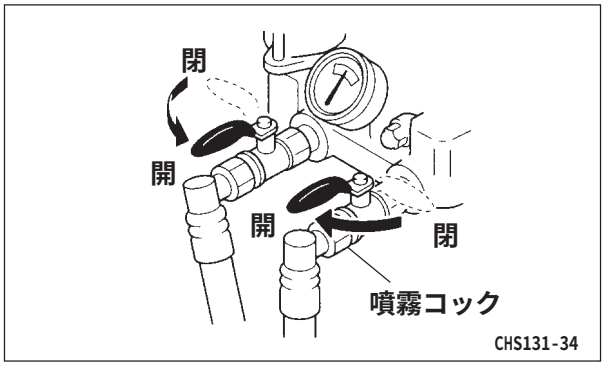


散布を行なう

1．動噴クラッチレバーを“入”の位置にします。



2．動噴調圧レバーを下げて圧力計が動くことを確認してください。
調圧ダイヤルを回して散布圧力を設定します。
[最高圧力：３．０MPa（３０kgf/cm²)]
調整後､固定ナットで調圧ダイヤルを固定します。

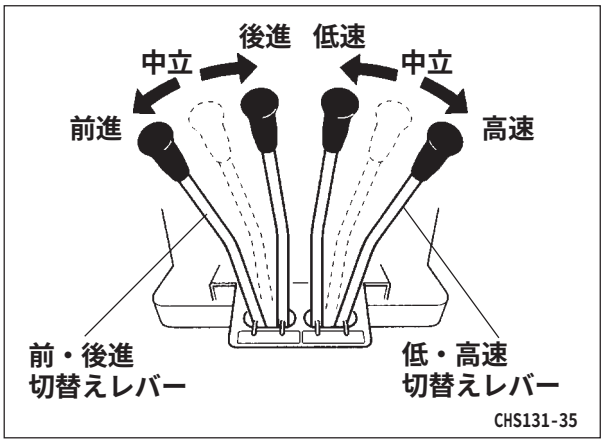


3．薬液タンクのフタを開けて、薬液のかくはん状況を確認してください。適切なかくはんを行なうために､ノズルの総噴霧量を１８L/min以下としてください。

重　要

本機は､薬液のかくはんを動噴の余水（循環水）にて行なっていますので、薬液投入後は、散布終了まで動噴を運転し薬液のかくはんを行なってください。

4．噴霧コックを開きます。



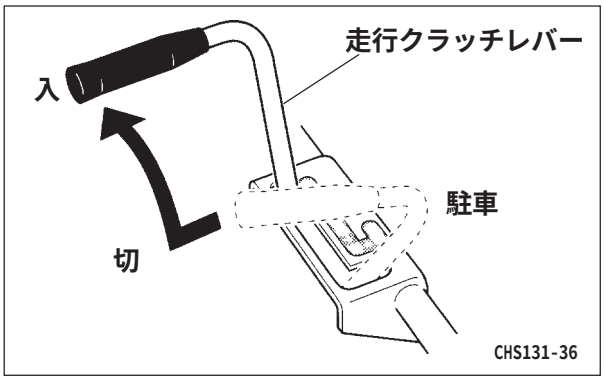
走行を行なう

1．前進するときは前･後進切替えレバーを前進に、後進するときは後進に入れます。

2．低速走行するときは低・高速切替えレバーを低速に、高速走行するときは高速に入れます。

重　要

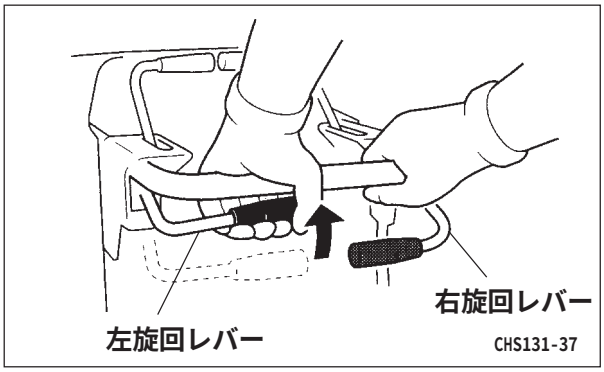
それぞれの切替えレバーは確実に操作してください。走行中にギヤが抜けたり、故障の原因となります。
切替えレバーの操作は、走行クラッチレバー位置が、切または駐車位置で本機が確実に停止しているときに行なってください。



3．走行クラッチレバーをゆっくり“ 入 ”の位置にすることにより走行を開始します。

重　要

走行を開始したら、走行クラッチレバーを確実に“ 入 ”の位置とします。
中間位置で走行すると故障の原因となります。



旋回を行なう

1．左に旋回するときは､左の旋回レバーを握ります。
右に旋回するときは､右の旋回レバーを握ります。

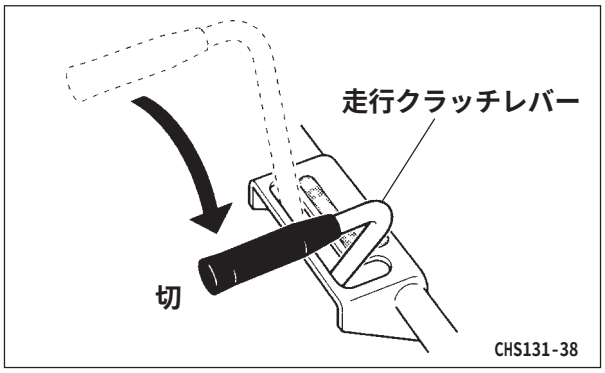
重　要

それぞれの旋回レバーは確実に握るまたははなすように操作してください。
中間位置での使用は故障の原因となります。

2．旋回後は旋回レバーをはなしてください。

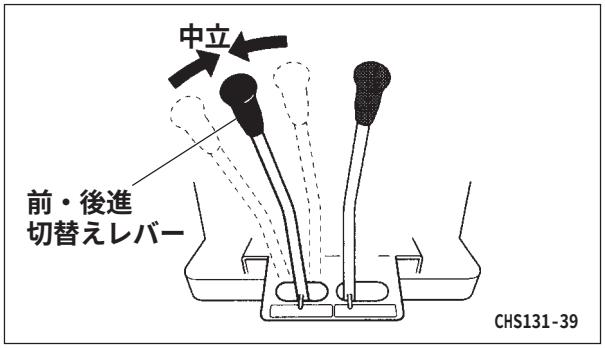
⚠ 警　告

旋回する方向に人､障害物のないことを確認し、ゆっくりと行なってください。

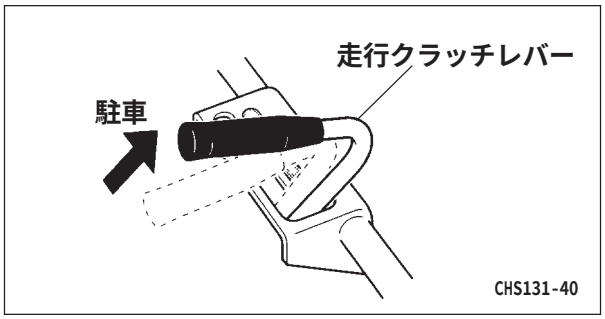


走行を停止する

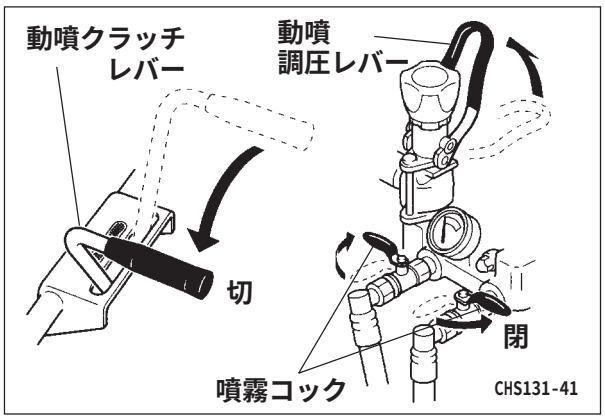
１．走行クラッチレバーを“ 切 ”の位置とします。



２．前・後切替えレバーを“ 中立 ”の位置にします。



３．走行クラッチレバーを“ 駐車 ”位置とします。

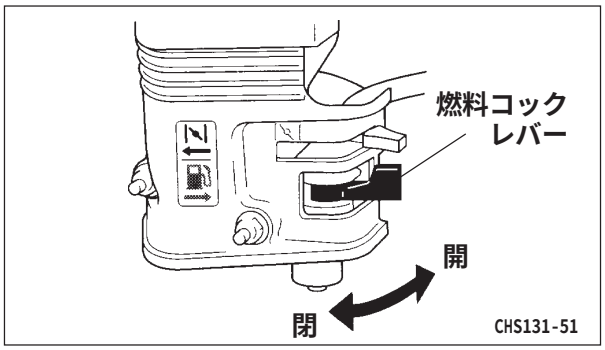


散布を停止する

１．噴霧コックを閉じます。

２．動噴調圧レバーを上げます。

３．動噴クラッチレバーを“ 切 ”の位置にします。

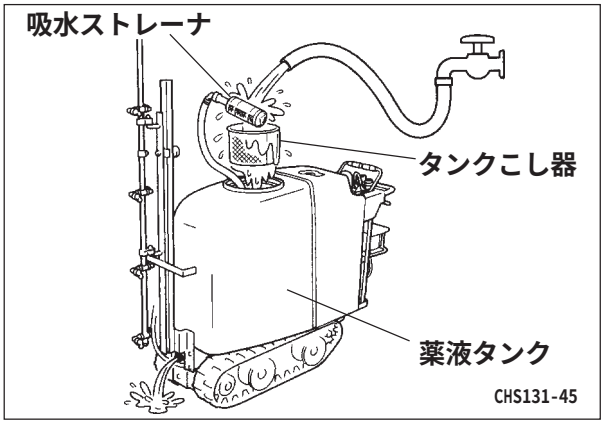


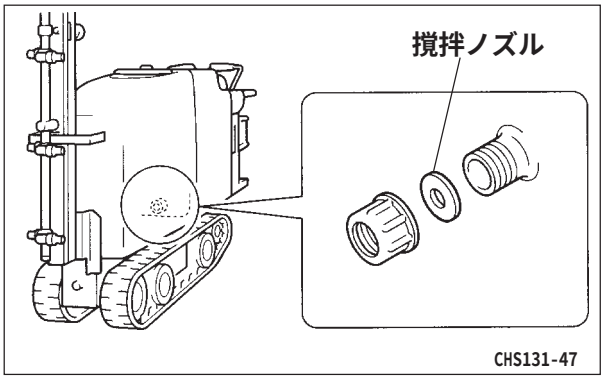
作業を終了する

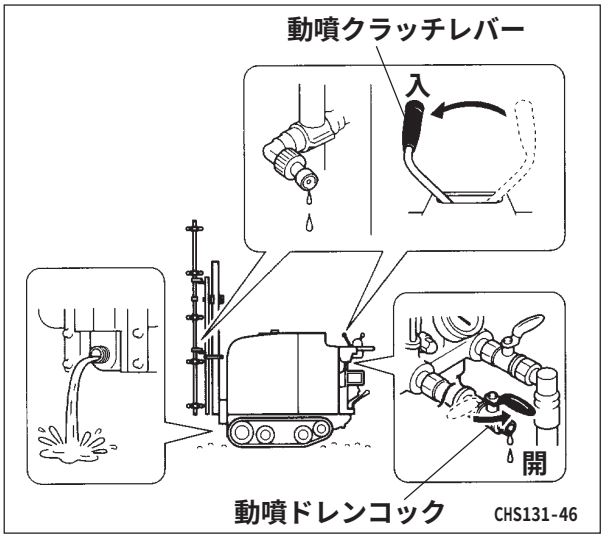
１．エンジンスイッチを押して、エンジンを停止します。

２．燃料コックレバーを“ 閉 ”の位置にします。

散布終了後の手入れ







重　要

凍結による不具合などは、メーカの責任外となりますので、ご注意ください。

清掃

１日の噴霧作業が終わったら、次の要領で使用後の清掃をしてください。

清浄運転

薬剤で汚れた部分は清水できれいに洗浄します。機体は常に清潔な状態にしておくことを心掛けてください。

- 薬液タンクに清水を補給し、散布の要領でノズルから吐き出し、薬液配管内の洗浄を行ないます。
- タンクこし器、吸水ストレーナ、撹拌ノズルをきれいにします。
- 薬液の粗粒が詰まっていることが多いのでよく清掃してください。

凍結の恐れがある場合

1．薬液タンクドレンのフタを外し、薬液タンクをカラにします。
2．エンジンを運転し、動噴クラッチレバーを“入”にし、ノズルから水が出なくなるまで水抜きをします。

重　要

５分間以上のカラ運転はしないでください。

3．送水ホースをノズル部より外します。
4．動噴ドレンコックを“開”とし、動噴内部の水を抜きます。
5．その他の方法として、薬液タンク内に不凍液を入れ動噴を無圧力で運転し、ノズルから吐出した時点に停止させることにより、配管内に不凍液を充満させ、凍結を防止することもできます。

⚠ 警　告

- 凍結防止に不凍液を使用した場合、次に本機を使用する際の不凍液の回収は、不凍液の説明書に従って実施してください。
- 環境汚染を起こさないよう充分配慮し、直接外部に廃棄しないでください。

点検・整備

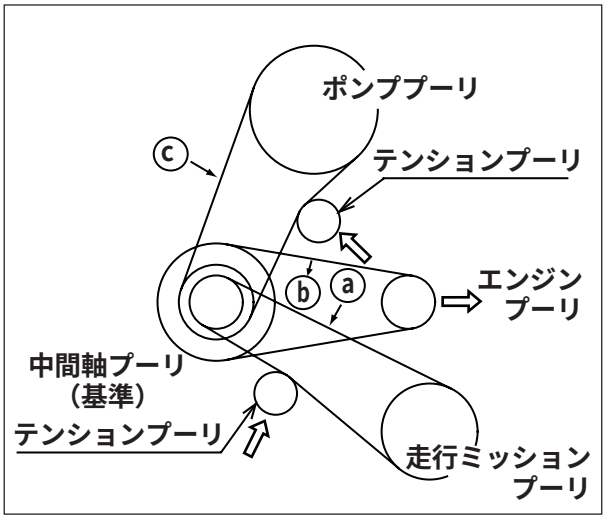
本機の点検、調整を怠ると事故の原因となることがあります。常に点検を行なって、本機を正常な状態に保つことが安全につながります。必ず実施してください。

- 始業点検は、使用者の方が行なうものです。
- 点検して異常があった場合は､速やかにお買い求めの販売店または整備工場へ修理を依頼してください。
- 不明な点がありましたら弊社営業所までお問い合わせください。

◎‥‥使用者は、エンジン始動前に点検してください。
●‥‥使用者は始業前に、エンジンを始動させて点検してください。

項目	点検内容	点検時期			
		始業	初回 20時間	100時間毎	1年または 300時間毎
各Vベルト	ベルトの張りは適正か		○	○	
	亀裂、損傷はないか		○	○	
ミッション	油量は適切か		○	○	
	油の汚れはないか			○	
	油漏れはないか	◎			
	油の交換				○
燃料	燃料タンクに燃料は入っているか	◎			
	燃料キャップは確実に締まっているか	◎			
可燃物の付着	本機およびエンジンに草、屑などの可燃物が付着していないか	◎			
エンジンスイッチ	エンジンが始動・停止するか	●			
ラベル類	ラベルのはがれ、脱落、損傷はないか	◎			
フレーム	亀裂、変形、腐食はないか				○
足回り	ゴムクローラの亀裂、損傷はないか	◎			
	遊動輪の亀裂、損傷および摩耗はないか				○
	クローラ張りの調整		○		
エンジン	オイルの量は適切か	◎			
	オイルの漏れはないか	◎			
カバー類	各カバー類に亀裂、変形、損傷はないか				○
	各カバー類に脱落はないか	◎			

項　　目	点　　検　　内　　容	点検時期			
		始　業	初　回 20時間	100時間 毎	1年または 300時間毎
スロットルレバー	レバーの動きに合わせて、エンジン回転数が変化するか	●			
左・右旋回レバー	本機が旋回するか	●			
	レバーの遊び代は適切か		○		
	サイドクラッチワイヤの調整		○		○
	支点部の注油			○	
変速レバー	各変速位置に入るか	●			
走行クラッチレバー	レバーは確実に入り戻るか	●			
	スムーズな発進と停止ができるか	●			
	走行クラッチロッドの調整		○		○
	支点部の注油			○	
駐車ブレーキ	右サイドクラッチワイヤの調整		○		○
	支点部の注油			○	
動噴クラッチレバー	レバーは確実に入り戻るか	◎			
	動噴クラッチロッドの調整		○		○
	支点部の注油			○	
動噴	オイルの量は適切か	◎			
	オイルの漏れはないか	◎			



Vベルト調整要領

Vベルトの張り調整は矢印（⇨）部にて調整します。

ベルト張りの目安（ベルトのたわみ量）

ⓐ 部	1 kgで　5 ㎜
ⓑ 部	1 kgで　3 ㎜
ⓒ 部	1 kgで　5 ㎜

故障対策

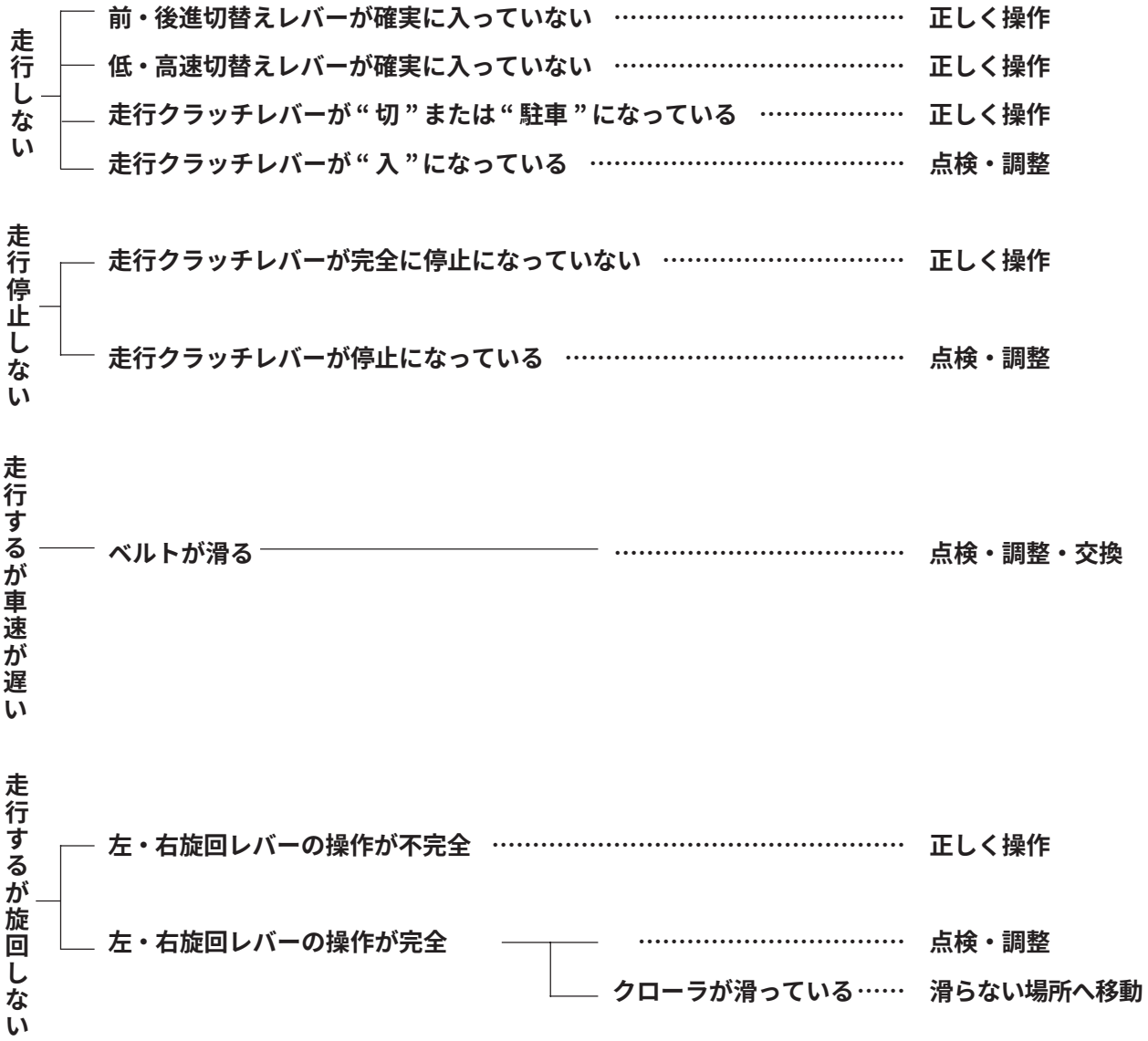
クローラスプレーヤを防除時期に満足に使用していただくためには、いつも点検・整備を忠実にしていただくことです。万一運転不調を生じた場合は、次の故障探求表によって順次調べるようにしてください。ご不明の点または正常に作動しない場合は、お買い求めの販売店あるいは地区共立エコー株式会社にご相談ください。
（☆印は販売店或は地区共立エコーでの調整がのぞましいもの）

故障探求表

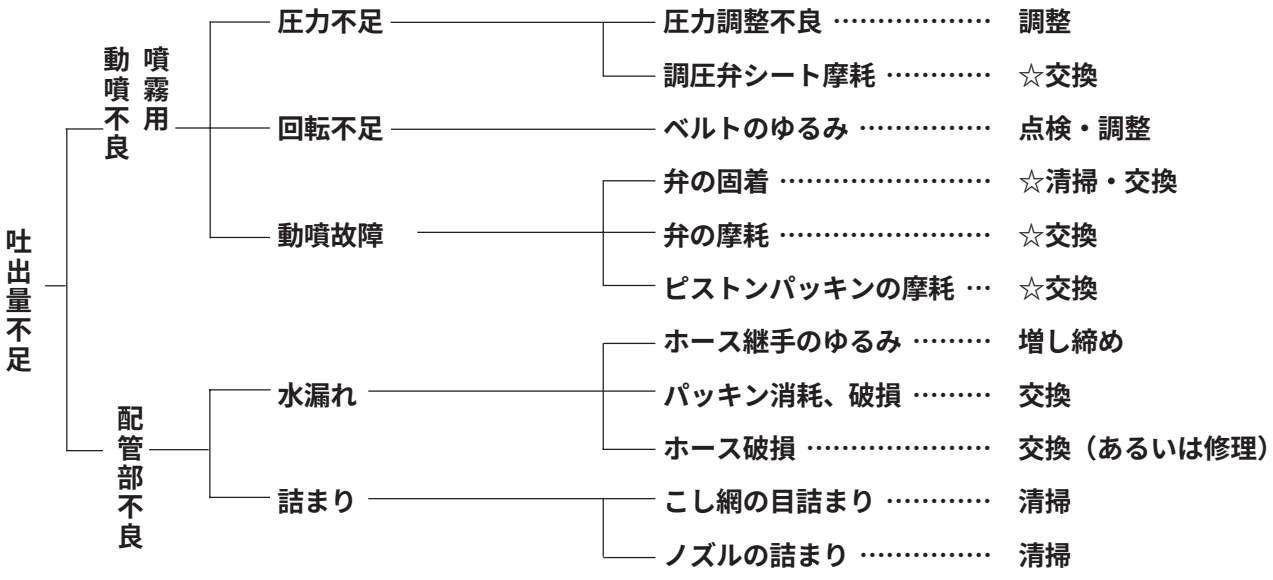
・エンジン関係

エンジンが始動しないまたは困難	リコイルが引けない	エンジンの焼き付き ……	☆修理・交換
		異物のかみ込み ……	☆清掃・交換
	リコイルが引ける	燃料タンクに燃料がない ……	補給
		燃料コックが閉じている ……	正しく操作
		気温が低い ……	チョークを閉とする
		エンジンスイッチが運転になっていない …	正しく操作
		走行クラッチレバー“切”または“駐車”になっていない ……	正しく操作
	エンジンは始動するが回転が続かない	低速回転の調整不良 ……	調整
		燃料に水またはゴミの混入 ……	清掃
		チョークレバーが閉になっている ……	正しく操作
エンジン出力不足	スロットルが全開になっていない ……		正しく操作・調整
	吸入空気量の不足	チョークレバーが完全に開になっていない…	正しく操作
		エアクリーナの汚れ ……	清掃・交換

・走行関係


走行しない
前・後進切替えレバーが確実に入っていない …… 正しく操作
低・高速切替えレバーが確実に入っていない …… 正しく操作
走行クラッチレバーが“切”または“駐車”になっている …… 正しく操作
走行クラッチレバーが“入”になっている …… 点検・調整
走行停止しない
走行クラッチレバーが完全に停止になっていない …… 正しく操作
走行クラッチレバーが停止になっている …… 点検・調整
走行するが車速が遅い
ベルトが滑る …… 点検・調整・交換
走行するが旋回しない
左・右旋回レバーの操作が不完全 …… 正しく操作
左・右旋回レバーの操作が完全 …… 点検・調整
クローラが滑っている…… 滑らない場所へ移動

・薬液散布関係


吐出量不足
噴霧用動噴不良
圧力不足
圧力調整不良 …… 調整
調圧弁シート摩耗 …… ☆交換
回転不足
ベルトのゆるみ …… 点検・調整
動噴故障
弁の固着 …… ☆清掃・交換
弁の摩耗 …… ☆交換
ピストンパッキンの摩耗 … ☆交換
配管部不良
水漏れ
ホース継手のゆるみ …… 増し締め
パッキン消耗、破損 …… 交換
ホース破損 …… 交換（あるいは修理）
詰まり
こし網の目詰まり …… 清掃
ノズルの詰まり …… 清掃

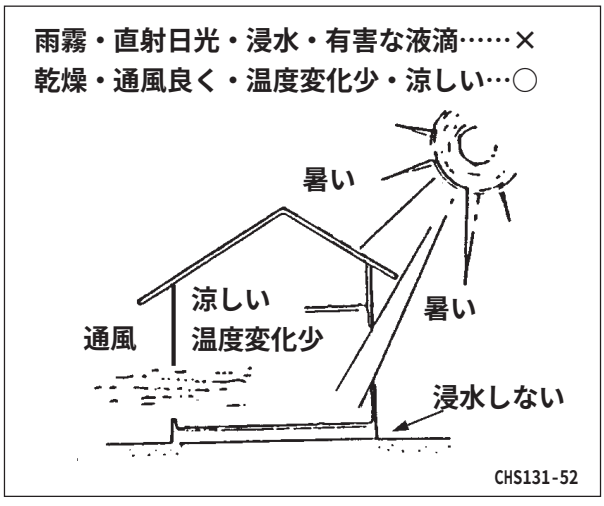
長期格納整備

格納整備（年間整備）

本年の散布作業が終了して、来年使用されるまでの遊休期間中に本機の分解、清掃、修理整備を行なっておき、来年の散布作業が支障なくできるようにしておきましょう。
格納整備は機材購入店または最寄の地区共立エコー株式会社の営業所にご相談ください。

● 格納整備の実施については使用状況により相違がありますが、通常次の項目に大別されます。

- エンジン
  本機からエンジンを降ろしてオーバーホールし、不良個所は修理し、清掃・点検・調整が細部にわたって行なわれます。
- 噴霧用動噴
  機体から動噴を降ろしてオーバーホールし、不良個所は整備し、清掃・点検・調整が細部にわたって行なわれます。
- 薬液配管
  薬液配管の外傷、へたり、漏れなどがないか調べます。
- Ｖベルト
  Ｖベルトの外傷、へたり、摩耗がないか調べます。
- 走行部
  駆動部分、ブレーキ、クラッチなどの摩耗、ゆるみなどを調べます。車体に腐触が多い場合、再塗装します。



● 整備後の長期格納保管には、次の処置を取りましょう。

- 燃料タンク内の燃料を完全に排出します。
- 配管内の水を完全に排出します。
- 薬液タンクのフタ、薬液タンクドレンのフタは開いておきます。
- 金属表面の出ている所は、油布で軽く表面を拭いておきましょう。
- 保管は風通しの良い、湿気の少ない場所へ防塵カバーを掛けて格納します。

仕　様

項　目		単 位	ＣＨＳ１３１	ＣＨＳ２０１
寸法（長さ×幅×高さ）		㎜	1225 × 450 × 975	1400 × 450 × 1070
質　　量		kg	145	165
薬液タンク容量		L	130	200
エンジン	型　式	―	４サイクルガソリン　ホンダ GX120SJ	
	出力（最大／定格）	kW(PS)	2.9/2.1(4.0 / 2.9)	
	燃料タンク容量	L	2.6	
走行	前進低速	㎞/h	1.3	
	前進高速	㎞/h	2.8	
	後進低速	㎞/h	1.3	
	後進高速	㎞/h	2.8	
	クローラ外幅	㎜	310	390
	接地長	㎜	520	640
	最低地上高	㎜	68	
	操向方式	―	サイドクラッチ	
	変速方式	―	ギア選択	
	クラッチ形式	―	ベルトテンション	
動力噴霧機	型　式	―	ＳＰ２８１Ｓ ３連ピストンポンプ	
	吸水量	L/min	23	
	回転数	rpm	950	
	圧　力（最高）	MPa（kgf/㎠）	3.0（30）	
アタッチメントノズル		―	CN1（一本桿 10 頭口），CN2（二本桿 10 頭口）， CNM12（ムカデノズル 12 頭口） 全幅および傾斜調整付、自動首振り、停止付	
送水ホース		―	内径φ 8.5　金具ＰＦ 1/4	

仕様は製品改良のため、予告なしに変更する場合があります。

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県清須市西枇杷島町宮前1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-000 22 3
X750607-000 3　　0803n 0251 ES

© 2000 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。